

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム「くにみの里Ⅱ」

作成日: 令和 2 年 1 月 9 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	社外や社内での身体拘束に関する研修に参加しているが、参加していない職員への内容の周知が出来ていない。	毎年、権利擁護推進委員養成講座の研修を受講し、自施設での拘束の無いケアを実践。	毎月のミーティングで身体拘束を議題で取り上げ協議。又、研修に参加した職員は報告書を作成し、報告書には閲覧した押し印をもらう。	3ヶ月
2	6	職員の入れ替わりがあり、身体拘束0委員会が開催出来ていない。	定期的に身体拘束0委員会を開催。年に4回開催。	早急に委員会の名簿作成。委員を選出後、会議を開催。会議の議事録も作成、職員全員に閲覧してもらい押し印までもらう。	3ヶ月
3	35	訓練日を決め、その日の日勤帯でどのように救助するのかシュミレーションするが、訓練日に勤務でない職員の関わりが無い。	訓練に参加、不参加に関わらず、施設全員の職員を対象として避難訓練に関わる。	訓練開催日を決めたあと、職員間で入居者を安全・迅速に救助するためにどうすべきか、救助に必要な道具・設備に問題無いか等を話し合い、事前にシュミレーションを重ねる。	3ヶ月
4	35	避難誘導の際、自施設職員は入居者の状態把握ができていないが、近隣住民や消防隊は解らない。	非常持ち出し品の中に入居者の基本情報が入っているが、誰が見ても状態がわかるようにしておく。	保険証の写しは勿論、処方箋の写し。救助に来た外部の方にとって一番知りたい情報として、救助対象者が歩行可能なのか？歩行でも杖が必要なのか。車椅子が必要なのかを確実に解りやすく明記しておく。	3ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。